

令和2年2月19日

会員各位

美しい多摩川フォーラム事務局

## 令和元年度 第3回 三部会合同部会

◆ 2月19日(水)、美しい多摩川フォーラムの令和元年度 第3回 三部会合同部会が開催されました。概要は下記のとおりです。

- ・開催日時：令和2年2月19日(水) 15時～16時半
- ・開催場所：立川グランドホテル 2F キャンティ
- ・出席者：副会長、部会長、運営委員、アドバイザー、会員等

### ◎ 三部会合同部会の概要

#### 1. 開会

#### 2. 部会長挨拶

#### 3. 講話 テーマ：「東京都南多摩西部建設事務所管内における河川環境に配慮した河川整備について」

講師：東京都南多摩西部建設事務所工事課河川設計総括担当  
主事 栗田 雄一 様

#### 4. 経過報告

- (1) 大田区より第11回・寄付金の贈呈(12/23)【資料1】
- (2) 「多摩川夢の桜街道」サイトに掲載する桜ウォーキングコース作成および下見(12/26、1/9、1/16、1/30、2/6、2/14)【資料2】
- (3) 令和2年度事業計画骨子・同予算(事務方素案)(1/22 運営委員会)【資料3】
- (4) 「多摩川酒蔵街道」スタンプラリー当選者に賞品発送(1/29)【資料4】  
～以下、当面の予定～
- (5) 広報誌「多摩川っ子・第13号&第12回多摩川子ども環境シンポジウム・みんなの発表誌」発行(3/10)
- (6) 「多摩川夢の桜街道」サイトに桜ウォーキングコース掲載(3/16)
- (7) 多摩川夢の桜街道～桜の札所巡り事業
  - ①第13回桜コンシェルジュ展にて「多摩川夢の桜街道～桜の札所・八十八ヵ所」写真展を開催(3/20～4/12)(立川市・国営昭和記念公園花みどり文化センター)
  - ②第11回“美しき桜心の物語”の語り会(3/28)  
(日の出町・寶光寺、平野啓子副会長)【資料5】

### ③桜ウォーキングと桜守学校 (4/3)

(青梅駅～梅岩寺～釜の淵公園、リビング多摩)

(8) 多摩川“水”大学講座(昭島市と共催、講師・小倉副会長)(5/15)【資料6】

#### 5. 意見交換

(1) 令和2年度事業計画・同予算(案)について【資料7】

(2) その他

#### 6. 取り組み事例の発表

#### 7. 総括

#### 8. 閉会

#### 1. 開会(初参加者紹介および資料確認)

(事務局)

定刻になりましたので、美しい多摩川フォーラム令和元年度第3回三部会合同部会を始めさせていただきます。始めに、1月22日の運営委員会にご出席された方には既にご紹介済で、重ねてのご報告になりますが、新しい事務局体制をご紹介します。本年1月1日付で、美しい多摩川フォーラム事務局担当の地域貢献部長であった野村専務理事に代わって、青梅信用金庫常務理事の塩野が就任しました。なお、本日は、塩野が信金業界の会合と重なったため、欠席となりました。それでは、野村より一言ご挨拶申し上げます。

(青梅信用金庫専務理事 野村 正男)

皆さんこんにちは。1月の運営委員会ではご報告いたしましたが、今日は今年初めての三部会合同部会ということで、改めてご報告いたします。本年1月1日の人事異動により、多摩川フォーラムを担っております地域貢献部の部長が、わたくし野村より塩野に代わりました。新体制となりましたが、わたくしは今まで通り多摩川フォーラムを一生懸命応援してまいりますので、変わらぬご支援ご協力をよろしく願いいたします。

(事務局)

事務局一同、これまで同様にフォーラム事務局をしっかり運営していく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。次に、当フォーラムのテーマソングである「多摩川の歌」の普及策の一環として、皆様にもぜひ親しんでいただきたいということで、本日は小野リサさんによるボサノバ・特別バージョンでお聞き下さい・・・(省略)。

本日はじめて部会にご出席される方をご紹介します。

(八王子市水循環部水環境整備課長 谷口 哲也 様)

谷口と申します。昨年4月に現在の職に着任いたしました。多摩川フォーラムの会合に参加するのは初めてですが、よろしくお願いいたします。

(事務局)

有り難うございました。それでは会議の進行に移ります。その前に資料の確認ですが・・・(省略)。

なお、本日は教育文化部長の平野副会長、蕨田地域経済活性化部長が出張により欠席となりました。それでは、渡邊部長より開会のご挨拶をよろしくお願いいたします。

## 2. 部会長挨拶

(渡邊部長)

皆さんこんにちは。昨年は台風19号、今年は新型コロナウイルスが大変な状況にございます。これを何とか乗り切っていかなければなりません。美しい多摩川フォーラムからも「頑張れ日本！」とエールを送りながら、災害に負けずに頑張っていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは事務局に進行をお願いします。

## 3. 講話

(事務局)

今日は、「東京都南多摩西部建設事務所管内における河川環境に配慮した河川整備について」というテーマで、講師に工事課河川設計総括担当主事の栗田雄一様をお迎えし、お話をいただきます。その前に、東京都南多摩西部建設事務所長の佐野正佳様に一言お願いします。

(東京都南多摩西部建設事務所長 佐野 正佳 様)

ただいまご紹介いただきました、東京都南多摩西部建設事務所長佐野と申します。私ども南西建では、八王子市、日野市管内の都道、河川を維持管理・整備しております。先ほどお話がありましたが、台風19号により、河川においては多大な被害を受けており、何とか梅雨前までに復旧できるよう、鋭意進めているところでございます。また、立川市と日野市にまたがる日野橋においても南西建の管理であり、通行止めで皆様にご不便をおかけしておりますが、こちらも梅雨前までの復旧、交通開放を目指しております。その他、東京都の事業や南西建の事業については多摩川フォーラムの皆様にご理解・ご協力をいただき、この場をお借りしてお礼を申し上げ、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

有り難うございました。それでは、栗田様、よろしくお願いいたします。

(東京都南多摩西部建設事務所工事課河川設計総括担当主事 栗田 雄一 様)

只今ご紹介いただきました、栗田と申します。本日は南多摩西部建設事務所、略して南西建の取り組み事例を紹介させていただき貴重なお時間をいただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、まず南西建の概要を紹介させていただき、当事務所でおこなっている河川整備の中で、大栗川、川口川、湯殿川の3河川の取り組みを紹介させていただきます。

それでは、南西建の概要を簡単に紹介させていただきます。当事務所は東京都の中で南西に位置し、中核市であり、ミシュラン三ツ星の山を抱える八王子市と、新選組のふるさとであり、有名なトラック工場がある日野市を所管しています。また、管内では、多摩川水系の18の一級河川、総延長約120kmを管轄しており、河川改修や施設の維持補修、管理などをおこなっています。

地形図を重ねると、おおよそこのような形になります。当事務所の特徴として、管内の河川は、西の山地・丘陵部から、東の平地へと流れる地域を形成しており、市民生活に欠かせないものであるとともに、アユやカワセミ、ホタル等が生息する自然環境を有しています。

河川の空間は、市街化に伴い、通勤・通学、散策、環境学習など多様な主体に利用され、市民が豊かな自然環境に触れ合うことで、憩い集える貴重なオープンスペースとなっています。

一方、平成29年10月の台風21号による大雨や、昨年10月の台風19号による大雨により、複数個所で護岸や天然河岸が崩落しており、流域の安全・安心を確保する護岸整備の重要性が高まっています。

こうしたことから、洪水を安全に流下させる護岸整備を精力的に進めるとともに、落差のある堰に魚道を付加するなど生物の生息環境の改善、河岸の緑化や緩傾斜護岸の整備など、親しめる水辺環境の創出に取り組んでいます。

そこで今回は、河川環境に配慮した取り組みとして、大栗川の中流でおこなっている緑化整備事業の取り組み、川口川の中流で、現在もおこなっている河川改修に合わせた取り組み、湯殿川の上流でおこなった取り組みを、それぞれ紹介させていただきます。

まずは大栗川です。全長15.3kmのうち、上流の10.98kmを南西建で管理しています。横倉橋から下流に向かって、中流は、南多摩東部建設事務所、下流は国が管理しています。大栗川は、昭和30年～60年代に、周辺の市街地開発(多摩ニュータウン)と併せて河道改修が完了しています。しかしその河道は、左下の断面のように、多段

のコンクリート張り護岸で、非常に無機質なものであります。

そこで、緑豊かな河川空間の再生を目的に整備拠点を決め、平成 27 年度から緑化及び親水空間の整備事業を実施しています。左下の断面から、右下の断面のように、護岸を立てることで河床幅を広げ、河床は寄せ土によりみお筋の形成を図ったり、苔が生えやすくなるような多孔質の護岸ブロックを使ったり、護岸の上部では植栽や張芝などにより緑化を図っています。

こちらが平成 28 年 7 月に工事着手前に撮影した写真です。ところどころ緑がありますが、人工的で、河床幅が狭いため流速が速く、短時間に水位が上昇する河川です。

こちらが平成 30 年 1 月に撮影した右岸側の整備後の写真です。昨年 11 月には、少しずつではありますが、緑が増えてきて、護岸にも苔が付着し始めています。

各施設を取り上げると、このようになります。(写真左上) 川に近づけるように飛び石を設置したり、(写真右上) 公園から川に降りられる階段を整備したり、(写真左下) 植栽帯や土系舗装の歩道にすることで景観に配慮したり、(写真右下) 多孔質なブロックを採用して緑化などに期待しています。

こちらが、整備完了後のイメージです。現在は右岸側のみ整備が完了しているだけですが、引き続き、左岸側の護岸や河床の工事を予定しています。

続いて川口川です。川口川は、中小河川整備事業として時間 50mm 降雨への対応工事をおこなっている河川です。昭和 62 年度より、下流（浅川合流点）から護岸整備に着手し、平成 30 年度末までに約 5.1km の整備が完了しています。現在は、唐犬橋上流にて、護岸整備と河道拡幅などをおこなっていますが、この辺り一帯は、地元から「景観に配慮した護岸に整備してほしい」との要望を取り入れながら整備しています。また、川口川では、渇水期になると流水が地下にもぐってしまい、瀬切れを起こす箇所があります。地元から「昔のように、表面に水が流れるようにしてほしい」などの要望もあり、瀬切れ対策として、河床整備工事をおこなっています。

こちらが断面図です。治水安全度を高めるため、灰色破線の現在の河道断面から、断面を広げるための河床掘削、護岸の構築をしています。その際、無機質なブロック積ではなく、自然石が表面を覆うよう、アンカー式の石積護岸を採用しています。また、計画護岸高より上の残斜面については植栽や芝張りを行い、河道内では、低水路に現地発生材の寄せ石を用い、植生等を行うことで、整備後の環境に配慮しています。更に、瀬切れを起こしてしまう区間では、川底に粘土を貼ることで意図的に不透水層を作り、表面に水が流れるようにしています。

こちらが各現場の写真です。上が、アンカー式の石積護岸などです。この護岸形式は、石と石の隙間に生物の隠れ場所を作ったり、時間の経過とともに石の隙間から草が生えたりして、景観だけでなく、自然環境にも配慮した護岸になっています。

そして下が、粘土張りの写真です。黄色い破線で囲った部分が不透水層になり、今

回の工事ではタマサンドと呼ばれる人口の粘土を張り付け、その上に覆土し水が流れるようにしています。

今後も、川口川では、環境に配慮しながら護岸整備を着実に進めていくとともに、瀬切れが起きている範囲では対策を施していく予定です。

最後に湯殿川です。湯殿川も、中小河川整備事業として、時間 50mm 降雨への対応工事をおこなっている河川です。管理延長 8.9km のうち、昭和 59 年度より、下流（浅川合流点）から護岸整備に着手し、平成 30 年度末までに、約 8.0km の整備が完了しています。現在は、残り 800m の区間を整備すべく、用地取得に努めています。

今回は、地蔵橋下流において、土地所有者から河川事業の協力を得て用地を広く取得し、貴重な河川用地のスペースを利用した多自然川づくりの紹介をさせていただきます。

こちらが、河川整備の際の平面図と断面図です。多自然川づくりの整備にあたり、6 点について考慮し設計しています。

- 1 時間に 50mm の降雨に対応できる護岸を整備。
- 右岸側の山の斜面の掘削をできるだけおさえ、更に豊かな自然林を残す。
- 右岸側の自然林付近は、生態系を配慮して河川管理用通路を設置しない。
- 水辺に親しんでもらえるよう、緩い傾斜の護岸を設置。
- 落差工に魚道（アブラハヤなど）を設置。
- ホタルの生息に配慮した河川整備。

などです。特に 6 つ目の「ホタルの生息に配慮した整備」に関してですが、計画にあたり、河川の保全、生態系の保全と復元などの調査研究や技術開発を総合的に実施している財団法人に相談しながら行いました。例えば、自然林を保全することで、ホタルの成虫の休憩場所になったり、木漏れ日によって藻類やカワニナなどの生物が育成したり、護岸前面に自然石及び覆土をすることで、サナギになるために上陸するホタルの幼虫が移動しやすくなったり、成虫が休憩や交尾をするための草が生えたり、苔類が着生する空間が形成され、ホタルの産卵場所が確保できます。その他、みお筋の形成などのご意見をいただき、整備しました。

こちらが、工事前と工事から数年経過した写真です。平成 26 年度に左岸側の管理用通路を整備し、付近一帯の工事は完了しています。最近では、「ホタルが出るようになった」と地元からの声があるため、多自然川づくりが成功しているのではないかと考えています。

事例紹介は以上です。今後とも、治水安全度の向上とともに、河川環境に配慮した整備を進めていきますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。ご清聴有り難うございました。

(事務局)

有り難うございました。せっかくの機会ですので、ご質問のある方は挙手をお願いします。

(東日本電信電話(株)東京西支店ビジネスイノベーション部第一バリュークリエイト

グループバリュークリエイト担当課長 横地 麻智子 様)

私の実家が稲城市で、今日お話をいただいた川と似たような、三沢川という川があります。三沢川もきれいに整備され、犬の散歩や子どもたちが水遊びしていて、実家周辺の風景を思い出しました。こういった取り組みは、多摩川本流、支流のあらゆるところで進んでいるのでしょうか。

(東京都南多摩西部建設事務所工事課河川設計総括担当主事 栗田 雄一 様)

東京都では、「東京都が目指す3つのシティ」として、セーフシティ、ダイバーシティ、スマートシティを掲げ、新しい東京の実現に向けています。このスマートシティの中に、「環境先進都市」への政策として「豊かな自然環境の創出・保全」というものがあります。更にその中には「水と緑に囲まれた、自然を感じられるまちをつくらう」という政策目標があります。基本的に、河川改修に関しては、「環境にも配慮しながら取り組みましょう」という流れになっているはずです。

(東日本電信電話(株)東京西支店ビジネスイノベーション部第一バリュークリエイト

グループバリュークリエイト担当課長 横地 麻智子 様)

昔の川はコンクリートに囲まれただけでしたが、最近は護岸がきれいに整備され、斜面も緩やかになっています。そのためには周辺の住宅等をセットバックさせる必要もあり、整備の大変さを知りました。

もしご存じであれば教えてください。私が通勤する際、登戸駅の手前と南多摩駅の先で2回多摩川を渡ります。台風の影響で護岸が崩れ、あちこちで整備をおこなっているのですが、オレンジ色のネットで囲われた部分だけ整備をおこなっているように見えます。あれはいったい何をやっているのでしょうか。

(東京都南多摩西部建設事務所工事課河川設計総括担当主事 栗田 雄一 様)

多摩川自体は国の直轄管理河川なので、国が工事をおこなっていると思います。オレンジ色のネットについては、工事現場で人が入ってこないようにするための注意喚起として設置しているのだと思います。

(東日本電信電話(株)東京西支店ビジネスイノベーション部第一バリュークリエイト

グループバリュークリエイト担当課長 横地 麻智子 様)

崩れた範囲はものすごく広いのに、工事している個所はその一部分なので、いったい何をしているのかと思ったのです。

(東京都南多摩西部建設事務所工事課河川設計総括担当主事 栗田 雄一 様)

恐らくですが、修復個所を移動しながら工事しているのではないかと思います。期間は分かりませんが、事業範囲を区切って工事をしているのではないのでしょうか。

(みずとみどり研究会事務局 佐山 公一 様)

貴重なお話を有り難うございました。今日お話を伺った中で、湯殿川で多自然川づくりに取り組んでいるそうで素晴らしいなと思いました。大栗川や川口川については直線河川なので致し方ないのかなと思うのですが、直線河川であっても多自然川づくりとしての護岸づくりや右岸左岸のつくり方の変更によって多自然化が図れるのではないと思うのですが、どうして違いが出てしまったのでしょうか。

また、川口川について、瀬切れを防ぐために粘土張りをおこなったということですが、そもそも水量を確保するための取り組みはおこなわれているのでしょうか。

(東京都南多摩西部建設事務所工事課河川設計総括担当主事 栗田 雄一 様)

直線河川についてですが、場所によってみお筋を形成する取り組みもおこなっております。川口川を例にしますと、もともと直線だったものを、あえて蛇行させるようなみお筋をつくっており、直線にならないように粘土を張っております。

(みずとみどり研究会事務局 佐山 公一 様)

私が言いたいのは、曲がってはいいても、瀬や淵ができる環境にはないですね。

(東京都南多摩西部建設事務所工事課河川設計総括担当主事 栗田 雄一 様)

失礼しました。治水の安全度を高めるためには、そもそも蛇行している川を直線化させなければならないというのがあります。その中で、少しでも自然に近づくような形で、川の流れ自体を蛇行させて整備することで、今後増水によって川の流れが変わっていくところもあるので、将来的には瀬や淵ができるようなところもあるのではないかと思います。特に大栗川の河床整備工事の中で、石を置いてその中に土が溜まって瀬になるような構造を考えております。将来的には自然に戻るような川になるのではないかと思います。

瀬切れに対する水の確保について、水をどこかから持ってくるようなことはしておりませんが、例えば川口川の場合、アンカー式の石積護岸によって背後の山や市街地からの流水が護岸を浸透して川の中に入ってくるようになっています。

(秋川ジオ 若松 昭秀 様)

2点質問があります。1点目は、蛇が斜面を登れますか。2点目は、八王子を流れる谷萩川という小さい川があり、40年ほど前に川の護岸をコンクリートで固めてしまいました。谷萩川の自然をちゃんと考えた改修をしていただければ良かったと思います。そこで提案ですが、コンクリートに、動物たちが上がれるような斜めの傾斜を応急的に付けたらどうでしょうか。

(東京都南多摩西部建設事務所工事課河川設計総括担当主事 栗田 雄一 様)

護岸改修によって蛇が登ることができるのかという質問ですが、蛇にとってどれくらいの傾斜であれば登れるのか、そこまで考えた整備はできていないのが現状です。しかし、所々に緩傾斜護岸を設け、皆さんが川に近づけるような緩い勾配の護岸を整備しておりますので、そういった所から登っていけないのではないかと思います。ただし、あくまでも親水性のために設けており、蛇のための整備ではありません。

2点目の谷萩川については、南西建ではなく八王子市さんの管轄ですので、八王子市さんからご説明をお願いします。

(八王子市水循環部水環境整備課長 谷口 哲也 様)

谷萩川は、ご指摘の通り、護岸がコンクリートで固められ、無機質で、必ずしも生物に優しくない構造でした。一方で、治水の面では、度々護岸を越えて宅地に水が浸入するため、八王子市で4ヵ所の治水対策重点地区を設け、そのひとつに谷萩川が入っております。八王子市では、数年前から治水の安全面確保のため、全河川というわけにはいきませんが、特に上流部について整備をおこなってまいりました。河川改修方法については、民家が近接している等の制約もあり、必ずしも生態系等に配慮した形にはなっておりませんが、まずは人命、財産を優先して整備をおこなっておりますので、ご理解をいただければと思います。

先ほど水量の確保という話がありましたが、八王子市では瀬切れや水量の減少を大きな課題として認識しております。市として水量を少しでも増やすため、宅地に降った雨を、浸透枡を設置することで地中に戻し、地下から河川に戻す方法を取っております。新築はもちろんのこと、既存の住宅についても市で補助金を出し浸透枡を設置していただき、降った雨を地中に戻す取り組みをおこなっております。八王子市の市街地周辺は地下水が豊富で、1000トンを超えるところもありますが、それが下水に流れてしまっているのが、河川に流れるような取り組みもおこなっております。

(事務局)

他に質問等がないようでしたら、栗田様に今一度拍手をお願いします。なお、講師の栗田様、佐野所長はご公務のため、このあとご退席されます。どうも有り難うござ

いました。

#### 4. 経過報告

(事務局)

それでは、経過報告に移ります。前回12月の活動部会以降の当フォーラムの活動につきましては、お手元の資料の表紙に時系列でお示ししております。その中から何点か補足説明をさせていただきます。

##### (3) 令和2年度事業計画骨子・同予算（事務方素案）(1/22 運営委員会)【資料3】

- ・ 【資料3】をご覧ください。1月22日の運営委員会において、第1号議案：令和2年度事業計画骨子・同予算（事務方素案）が承認されました。5枚目をご覧ください。今後のフォーラム活動について、運営委員の皆さまよりインバウンドや教育等に関する活発なご意見をいただきました。事務局では実現に向けた検討を個別に始めております。ご参考までに一部抜粋として添付しておりますので、後ほどゆっくりとご覧くださいませ。なお、議事録は美しい多摩川フォーラム公式ホームページに掲載しております。

##### (4) 「多摩川酒蔵街道」スタンプラリー当選者に賞品発送(1/29)【資料4】

- ・ 【資料4】をご覧ください。12月31日を以って応募を締め切りました。4ヵ月間で応募総数は145先に達し、1月7日に厳正なる抽選をおこない、当選者には1月29日に賞品を発送しました。2枚目をご覧ください。145先のスタンプラリー応募者データ分析シートになります。ご覧のとおり、多くの地域から応募があったことがわかり、スタンプラリー実施の効果があったものと考えております。なお、日本酒5蔵飲み比べセットとして300ml5本プラス多摩川酒蔵街道ロゴ入りオリジナルお猪口1個を20名様に、5蔵いずれかの300ml1本プラス多摩川酒蔵街道ロゴ入りオリジナルお猪口1個を30名様に、合計で300ml1130本をプレゼントしましたが、130本のうち50本を、具体的には各酒蔵様から10本ずつをご協賛いただきました。心より御礼を申し上げます。裏面をご覧ください。当選者からのお便りをご紹介しますので、後ほどゆっくりとご覧くださいませ。本件につきまして、各酒蔵様の取り纏めから日本酒の協賛に至るまで、スタンプラリー事業に全面的にご協力いただいた小澤運営委員に一言申し上げます。

(青梅商工会議所会頭 小澤 順一郎 様)

こういったイベントを実施いただき、有り難うございます。西多摩は東京の酒処でございまして、多くの方に知っていただければ大変有り難いことだと思います。環境

的にも文化的にも西多摩の資産だと思しますので、今後ご支援をよろしくお願いたします。

～当面の予定～

(事務局)

次に、当面の予定ですが、今週に入ってから、新型コロナウイルスの影響により各地でイベント中止のニュースが相次いでおり、とても心配しております。(7)②の第11回“美しき桜心の物語”の語り会につきまして、先ほど平野副会長と協議し、万一、せっかくご来場されたお客さまに何かあつては大変なことになるとの意見で一致しました。当分の間、新型コロナウイルスの感染が終息する見通しが立たないことに鑑み、誠に残念ですが、今回のイベントは中止の方向で検討したいと存じます。明日にも細野会長と協議し、結論を出せればと考えております。

#### (8) 多摩川“水”大学講座(昭島市と共催、講師・小倉副会長)(5/15)【資料6】

- ・ 【資料6】をご覧ください。令和2年度は9年目となり、昭島市様との共催のもと、実施する予定です。引き続き小倉副会長に講師をお願いし、水環境に関するリーダーの養成を目指します。事務局からの経過報告は以上です。渡邊部会長、よろしくお願いたします。

(渡邊部会長)

事務局からの経過報告について、何かご意見・ご質問はございますか。ないようでしたら、意見交換に進めます。はじめに事務局の方から説明してください。

## 5. 意見交換

### (1) 令和2年度事業計画・同予算(案)について【資料7】

(事務局)

【資料7】をご覧ください。これは、1月22日の運営委員会でご承認いただいた【資料3】の(事務方素案)をベースに、その後さらに見直しを進め、今回の案に改めた資料になります。

まず、収入の部ですが、会費収入は1,850,000円を見込んでおります。寄付金として、青梅信用金庫様より8,000,000円、委託金として青梅市様より250,000円を予定しており、前期繰越金2,755,085円と合わせて合計では12,855,085円となります。

一方、支出の部ですが、総会等運営費として、3,150,000円、各種活動費として5,350,000円を計上しております。なお、運営費の3活動部会について、今年度は年5回開催しておりますが、部会長・副部会長と相談した結果、来年度は

1回減らして年4回の開催を計画しております。ビデオレター制作費につきましては、経年劣化に伴う広報用ビデオカメラ、デジカメの購入を計画しております。また、広告宣伝費として、ケーブルテレビや駅前のオーロラビジョン等を活用した事業案内等のCM放映を計画しております。次に、活動費の多摩川酒蔵街道事業につきましては、好評を博したスタンプラリーの2年目を計画しております。「美しい多摩川フォーラムの森」の保全整備ですが、令和3年3月末を以って10年契約が満了となります。なお、看板につきましては、撤去費用として150,000円を見込んでおりますが、美しい多摩川フォーラム「御岳の森」に移設し、再活用を検討しております。また、「多摩の物語」の掘り起こし調査が新規事業になります。現在、平野副会長のご協力のもと具体的な調査エリアを検討しており、令和3年度に、調査した民話や昔話を冊子に纏める計画です。この結果、次期繰越金見込額は4,355,085円となり、合計では、12,855,085円となります。

次ページは、令和2年度事業計画（案）の主な実施内容になります。経済、環境、教育文化、総合軸に主な事業を区分しております。ご覧のとおり、継続事業が中心となります。教育文化軸の「炭焼き体験と水辺の交流会」について、1点だけ補足説明をさせていただきますと、昨年10月の台風19号で、炭焼き小屋の窯とログハウスが増水によって流され、大きな被害を受けました。その後、11月の運営委員会や12月の三部会合同部会では、「炭焼き体験と水辺の交流会」をどう実施していくか喫緊の課題として取り上げ、「御岳の森」の今後について議論を重ねてまいりました。これを踏まえ、1月22日の運営委員会では、事務局からの具体的な3つの提案が承認されました。一つ目は、窯はそっくり流されてしまったものの、今残されている炭焼き小屋の屋根と柱は、当面の間そのまま残して何らかの活用を検討していく。二つ目は、毎年大人気の「炭焼き体験と水辺の交流会」については、従来の「竹炭」から、移動式の窯を使用して比較的簡単にできる「花炭」に変更する。また、完全に流されてしまったログハウスに代わるものとして、奥多摩フィッシングセンターのバーベキュー施設を利用する。以上の3点です。因みに、花炭は、松ぼっくり、枝、葉っぱ、折り鶴など、有機物であれば何でも簡単に、比較的短時間で炭にすることができ、子どもから大人まで手軽に楽しめることができます。

次ページをご覧ください。今年度の事業活動につきましては、台風19号の被害で、美しい多摩川クリーンキャンペーンや多摩川カヌー駅伝大会等のイベントが中止になるなど、大きな影響がありました。なお、多摩川カヌー駅伝大会は3年目であった今年度の中止を以って終了となります。また、多摩川河川事業につきましては、大きく上振れしておりますが、これは11月の運営委員会でご承認いただいた広報誌「多摩川っ子&みんなの発表誌」を3月に発行することによります。そのほかは、ほぼ計画どおり進めております。

次ページは、令和元年度活動報告と今後の予定になります。後ほどゆっくりとご覧

ください。以上で説明を終わります。渡邊部会長、よろしく申し上げます。

(渡邊部会長)

それでは皆さん、ご質問やご意見がありましたらお願いします。なお、令和2年度事業計画・同予算(案)は、最終的には、総会提出議案を審議する3月12日開催の第3回運営委員会にて最終決定されますことをお含みおきください。

他にないようでしたら、その他、事務局から説明してください。

(2) その他

(事務局)

特にございません。

## 6. 取り組み事例の発表

(渡邊部会長)

さて、本日の三部会合同部会は基本的に終了しましたが、今日はこの後、取り組み事例の発表をおこないます。一人1分程度でお願いします。なお、これからの進行については、三部会合同部会の直接の議論ではないため、議事録には記載いたしません。安心してご発言ください。なお、時間の目安として、1分経過したら事務局でアラームを鳴らします。それでは、お一人ずつ時計回りで順番にお願いします。

<自己紹介・取り組み事例については、部会直接の議論ではないため省略>

(渡邊部会長)

有り難うございました。このような機会を通じて、フォーラム会員の皆さんの活動がますます活発になれば幸いです。

## 7. 総括

(小倉副会長)

皆様のご意見は大変参考になりました。今後の活動に活かしていきたいと思えます。また、新型コロナウイルスについては、せっかくのイベントが相次いで中止されていますので、一刻も早い終息を願っております。そして、本日の講話で南西建の栗田様から、河川環境に配慮した河川整備について貴重なお話を聞けて大変良かったと思います。またこのような機会を設けていただければと思います。それに関連して、中小河川での水量確保について話が出ましたが、八王子市でも努力されているということでしたので、河川環境には背後の流域も含めた整備が必要ということで、流域の自治体と一緒に東京都も努力をしていただきたいと思います。

## 8. 閉会

(渡邊部会長)

今日は、長時間にわたりまして活発なご意見をいただき、有り難うございました。  
第3回三部会合同部会を終了します。有り難うございました。

以 上